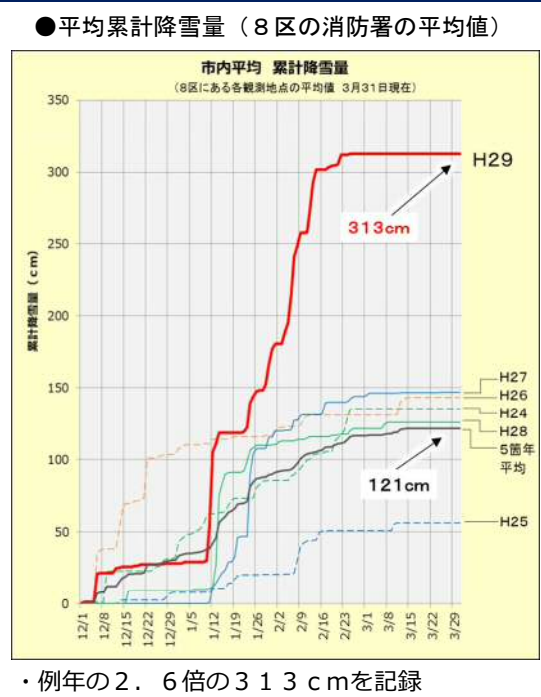


平成29年度の豪雪等を踏まえた新潟市における今後の除雪体制について

平成29年度の豪雪の状況



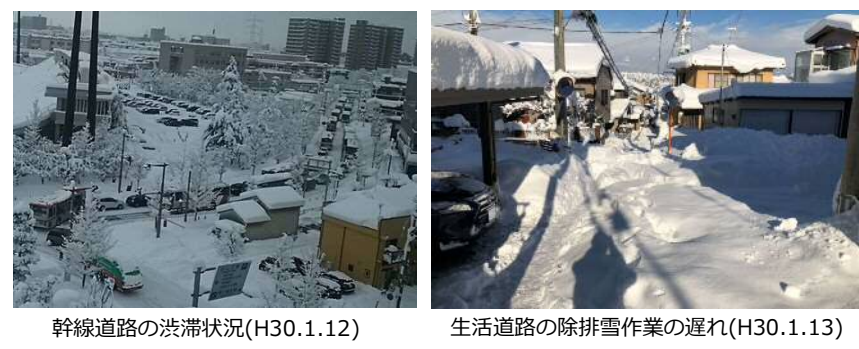
●最大積雪深（8区の消防署データ） 単位:cm

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	平均
H24～H28平均(A)	39	29	29	37	48	34	20	25	33
H29(B)	60	58	58	56	85	60	85	80	68
(B) / (A)	1.5	2.0	2.0	1.5	1.8	1.8	4.3	3.2	2.1

・例年降雪量の少ない西区においても、最大積雪深85cmを記録

市民生活への影響

「幹線道路を中心に連日大渋滞」、「生活道路における除排雪作業の遅れ」、「主要なバス路線の運休・ダイヤの乱れ」、「貨物運送への影響」 など



除雪体制見直しの検討に着手

平成29年度の豪雪により判明した問題点だけでなく、潜在的な問題点についても洗い出しを行った上で、除雪体制見直しの検討を行うこととしました。

道路除雪の主な問題点

- 除雪車の受持延長が長く、朝までに除雪が終わらない
- 除雪車の老朽化により、除雪効率が悪い
- 区内の雪の量が適切に把握できず、出勤に遅れ
- 雪捨て場が不足
- 除雪車の稼働状況が把握できない
- 排雪を行う目安がない
- 除雪オペレータの高齢化により除雪の担い手が不足
- 時間外労働の増加（働き方改革）
- 市の道路除雪に関する市民への周知不足
- 車両の路上駐車、車道を歩く歩行者の影響による大渋滞
- 異常降雪時の除雪優先順位が不明確
- 異常降雪時の除雪応援が混乱

除雪体制検討の視点

- I 除雪の効率化・適正化
- II 除雪協力業者の支援
- III 市民広報の充実
- IV 異常降雪時の対応強化

具体的な取組

平成30年度の主な取組

ICTの導入 ～除雪車運行管理システムを導入し、効率的な除排雪作業を行います～

【概要】
・除雪車にスマートフォン端末を搭載し、インターネット上で稼働状況を把握することで、除排雪作業の効率化を図ります。

【導入による効果 (H30)】
・リアルタイムな除雪車の稼働状況の把握
・異常降雪時の区相互の応援体制の強化
・除雪協力業者及び市職員の業務量の軽減
・正確かつ迅速な除雪費の把握

【稼働記録の活用による効果 (H31以降)】
・除雪車の除雪受持延長の適正化

● 除雪車運行管理システムのイメージ

システム (自動集計) → インターネット → リアルタイム通信 → スマートフォン (GPS) → 稼働状況管理 (新潟市) / 稼働状況管理 (書類作成・提出) (除雪協力業者) → 稼働状況管理 (メッセージなし) (操作画面イメージ)

新たな雪捨て場等の確保 ～雪捨て場や雪置き場を積極的に確保し、効率的な除排雪作業を行います～

【概要】
・河川敷、調整池、駐車場などを活用した大規模雪捨て場、地域の公園や遊休地などを活用した小規模雪置き場を積極的に確保し、除排雪作業の効率化を図ります。

【効果】
・運搬時間短縮による除排雪作業の効率化
・運搬車両の分散による雪捨て場の混雑解消
・狭い生活市道における大雪時の早期交通確保

公園の出入口を広げ、雪置き場として活用した事例

道路除雪PRパンフレットの作成・配布、市ホームページ上での公開

～市民から市の道路除雪に関するご理解をいただきます～

【概要】
・マンガやイラストを活用した、市民向けの分かりやすい道路除雪PRパンフレットを作成・配布し、市の道路除雪に関する市民への周知を行います。
・パンフレットは、市ホームページ上でも公開します

【効果】
・市民から市の道路除雪に関するご理解をいただきます。

道路除雪PRパンフレット 「にいがた『ゆきみち』ガイド」

- 排雪目安の設定
- 除雪オペレータ研修の開催
- 関係機関、関係団体との除雪応援体制の強化

今後の主な取組

- 除雪車の除雪受け持ち延長の適正化
- 老朽化した除雪車の計画的な更新
- 正確な気象予報に基づく適切な除雪出動
- 異常降雪時の企業や市民への協力のお願い